

# 2026年度 事業計画書



学校法人桃山学院  
Momoyama Gakuin



### 持続可能な地域共生社会の実現に貢献する

学校法人桃山学院 理事長 藤原 敏正

桃山学院は1884年、英国聖公会宣教協会（CMS）が大阪の川口外国人居留地（大阪市西区）に三一小学校（男子英学校）を創設したことに端を発します。幾多の変遷を経て、昭和町キャンパスに中学校と高等学校および桃山学院大学ビジネスデザイン学部、和泉キャンパスに桃山学院大学と大学院を設置するに至っております。各設置学校において、一貫して建学の主旨であるキリスト教精神に基づいた教育を行い、永い歴史のなかで優秀な卒業生を多数輩出し、社会から高い評価を得てきました。一方で、人口減少等に伴う社会経済状況の変化により、私学をとりまく環境は年々厳しさを増し、本学院も少なからずその影響を受けております。

また、グローバル化の進展等により、人々の価値観も大きく変わりつつあります。2015年に国連が採択したSDGs（持続可能な開発目標）への理解浸透も相まって、地球規模での気候変動等への危機感も高まり、社会課題の解決と経済成長の両立に向けた中長期的な取り組みが求められています。

こうした点を踏まえ、本学院は、2050年を見据えた中長期計画である「桃山学院将来構想」をスタートさせています。本構想では、パーパス（教育機関としての存在意義）を次の通り掲げております。

「私たちは、キリスト教精神に基づく教育を通じて、社会課題の解決を目指す高い志と奉仕の心をもった人（サーバント・リーダー）を育て、持続可能な地域共生社会を実現します。」

このパーパスのもと、桃山学院は生徒・大学生層にとどまらずに、対象を横軸と縦軸に面的な展開を図ります。具体的には、横軸として南大阪、更には南関西（奈良・和歌山を含む）を基盤にしなが、縦軸として、小・中・高・大、ビジネス層等の社会人、シニア、外国人までを対象に、総合的な教育サービスを展開して参ります。

これによって、本学院は地域と共に発展し、人口問題、少子高齢化問題、外国人受け入れ問題等の地域の課題解決に寄与して参ります。

桃山学院将来構想に基づき、この数年を持続可能な学院へと着実に歩み進めるための機会ととらえ、様々な改革に着手します。昨年度は、大学統合により桃山学院教育大学が桃山学院大学人間教育学部として新たな歩みを始めました。今年度はその統合効果をさらに深化・加速させ、大学全体としての教育力と組織力の強化を一層進めて参ります。さらに、文部科学省の認可を受け、今年度より桃山学院大学としては初となる理系学部である工学部を設置します。工学部の設置により文理融合の体制が整い、総合大学として地域に新たな価値を創出する歩みを進めて参ります。桃山学院中学校・高等学校においては、今年度より中学校の定員を拡大し、生徒の学びの多様性と進路支援体制を一層強化することで、教育の質と学びの連続性をより確かなものにして参ります。

本学院としても、学院の永続性および発展性を担保すると同時に、教育研究活動の環境整備を行うために適切な財政対応が必要な時期であることを十分に認識し、ここに2026年度の事業計画を策定しました。各事業計画については、PDCAサイクルを十分に稼働させ各々の計画の達成度を確認し、達成できなかった場合はその原因と改善策を探り、より有効なものとなるように進めて参ります。これにより教職員の意識改革も図っていく所存です。

桃山学院将来構想により、社会からより評価される学院となることを目指し、教職員が一体となって鋭意努力してまいりますので、皆様方の一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

#### CONTENTS

理事長メッセージ	1	桃山学院中学校高等学校事業計画	3
桃山学院大学事業計画	2		



### 事業計画の策定にあたって

桃山学院大学 学長 中野 瑞彦

桃山学院大学は、2025年に桃山学院教育大学との統合により人間教育学部を新設しました。さらに、2026年4月、本学初の理系学部となる「工学部（工学科・入学定員160名）」を和泉キャンパスに新設しました。工学の専門知識や高度な技術に加え、情報・データサイエンスやビジネス領域への理解を深め、実践的に社会課題に応える力を育成します。また、同年4月に経済学研究科と経営学研究科を改組（統合）して「経済経営学研究科（博士前期課程・博士後期課程）」を開設しました。この結果、本学は8学部9学科・3研究科を擁する総合大学へと成長し、今後も時代の先を見据えた挑戦を続けます。

2025年度に始動した「第三次大学中期計画」は、18歳人口が急減する2030年度以降に備え、大学の基盤を強化する取り組みです。計画は2025年度から2027年度までの3年間で、「教育改革」「研究改革・教育研究資産改革」「社会貢献活動」「大学構造改革」の4つの柱を掲げています。2年目を迎える2026年度は各種改革をさらに加速させます。競争力を維持するためには、教育における先鋭的な強みの創出が不可欠です。全学的な協働体制を整え、迅速な実行を重視しながら、南大阪を中心とした地域に確固たる地位を築くことをめざします。今後も「学生の成長を第一に」の精神を貫き、教職員が一丸となってこれらの改革を推進してまいります。

#### ■ 2026年度の主な事業について

##### <教育改革>

第三次大学中期計画に盛り込んだ改革案を適宜検証し、教学マネジメントを実質化するための組織を立ち上げて取り進めていきます。特に以下の4点に注力します。

- ①学部教育改革として、引き続き各学部での取り組みを進める。また、2025年度統合した人間教育学部の教員編制と手厚い学生支援体制を踏まえ、他学部と連携し実行できるよう計画を策定する。一方、工学部では、学部の特長と企業・団体との連携を生かしたプログラムを実施する。
- ②共通教育改革として、2027年度に向けてカリキュラム方針や科目編成を見直し、アカデミックスキルやキャリアデザイン科目の効果的な教育方法を検討する。また、社会人基礎力を測定し、学生の成長の可視化を進める。
- ③学部横断教育改革として、副専攻プログラムの導入に向け、取り組みの方向性を明確にする。
- ④ディプロマ・ポリシー達成のためのカリキュラム・授業形態・指導體制の整備を、アセスメントプラン等にもとづき計画する。

##### <研究改革・教育研究資産改革>

各教員の研究成果を引き続き可視化し社会へ発信します。研究資産としての電子書籍の充実、また、学修ポートフォリオの安定運用、学生スタッフ経験者等の人的資産を活用し、学生の成長を促進します。

##### <社会貢献活動>

社会貢献プログラムや社会人のキャリアアップ、リスキリングを支援するプログラムを実施します。

##### <大学構造改革>

第三次大学中期計画の遂行に必要な体制を構築します。具体的には以下の2点に取り組みます。

- ①教育や研究の質向上に向け、諸制度の見直しを行う。
- ②環境変化に柔軟に対応するために、大学行政組織のスリム化を図る。



### 事業計画策定にあたって

桃山学院中学校高等学校 校長 生田 耕三

英国聖公会宣教師 C.F.ワレン師らにより設立された桃山学院は、今年で 142 年目を迎えます。この長い歴史の中で、一貫して桃山学院が目指してきたものはキリスト教精神に基づく人間教育であり、自由を尊重する校風の中で、自らの責任を自覚し、自主的な規律を作って、これを守っていく良識ある若者を育てることです。桃山学院中学校高等学校は生徒一人ひとりの人格と個性を尊重しつつ、真に社会に貢献できる「人間力」を備えた若者をこれからも育成していきます。また、長い歴史の中で創りあげられた自由な校風を大切にしつつ、大学進学実績向上に向けて教職員一丸となって努力します。

#### ・2026 年度の主な事業について

##### <進路指導の充実>

生徒たちが希望する進路、多様な進路を大切に、進学実績の向上を図っていきます。S 選抜コースのさらなる発展・充実等により、超難関大学への進学実績も高めます。個別指導型支援の推進と連動して推薦入試対策を拡充し、国公立大学合格実績の向上を目指します。

##### <グローバル教育の推進>

ポストコロナで以前よりも海外との交流がさらに活発になっています。留学も双方向で大きく動いています。その中で海外の高校との交流を深め、生徒の異文化理解を促進します。また、海外大学への進学サポート体制を充実させ、海外大学への進学者を増加させます。

##### <教員の指導力の向上>

外部講師を招いての研修会や授業見学等を実施し、教員の指導力を高め、生徒の授業満足度を高めます。

##### <生徒の学習習慣の確立>

日常の指導はもちろん、放課後支援の更なる充実、発展によって生徒の学習習慣の確立を図ります。

##### <生徒・教職員のウェルビーイングの向上>

アンケート結果等の分析によって課題を抽出し、必要な対策を行うことでウェルビーイング向上に取り組みます。

##### <教職員の働き方改革>

外部の多様なリソースを活用した働き方改革を推進していきます。

##### <SDGs 活動への取り組み>

- ① スクールバイスクールにおいて、ウクライナへの教育支援の継続と募金活動を行います。
- ② リメイク活動（生徒自身で学内施設を補修する活動）を実施します。
- ③ 響プロジェクト（AED の普及及び啓蒙活動）・聖バルナバ病院での思春期講座を実施します。
- ④ 環境保全活動（桃山 Go Green Project）を実施します。